

# 水濡れ史料の救済初期マニュアル

水に濡れた史料も乾燥させれば保存することができます!!

※ここで処理対象としている資料は簿冊文書です。

## ◎用意するもの

### 【必須】

ロール状のキッチンペーパー/  
新聞紙 / 竹べら/ダンボール/  
スランテープ/マスク/ 薄手ゴム  
手袋

### 【あれば良い物】

座布団用圧縮袋 / 掃除機  
/ 扇風機 / エタノールなど

## ◎作業にあたっての注意事項

- ・乾燥処理前の史料は、カビの発生や劣化を招くおそれがあるため、天日干しやアイロン・ドライヤーなどの急激な乾燥は行わない。
- ・水濡れ史料は無理に開かない。開きにくい場合は、竹べらを使う。
- ・史料の端を持つと破損するおそれがあるため、史料の真ん中を持つようにする。
- ・泥など汚れたままの状態乾燥させる。
- ・すでにカビが生えてしまった史料については、作業前にエタノールを噴霧し、除菌する。

## ◎作業の手順

### 【自然乾燥法】

- (1) 吸水紙の作成
  - ①新聞紙数枚を A4 版に折る
  - ②A4 版に折った新聞紙をキッチンペーパー3枚(3枚連結した状態)でくるむ



- (2) 水濡れ史料に吸水紙を挟む
  - ①水濡れ史料の10数ページごとに(開きそうなページ)に吸水紙を挟み込む



- (3) 吸水紙を挟んだ史料の乾燥
  - ①A4版より1周り大きいダンボールをキッチンペーパーでくるむ
  - ②2枚のダンボールで表紙側と裏表紙側から水濡れ史料を挟む
  - ③挟んだ史料をスランテープで縛って固定する
  - ④縛った史料は圧着を防ぐために縦置きにして乾燥する
  - ⑤吸水を見て定期的に吸水紙を替える



### 【真空パック法】

- (4) 対応が後になる史料については、真空パックでカビの進行をくい止める
  - ①座布団用圧縮袋の吸込口を上にして袋を広げる



- ②自然乾燥法の手順(3)-③で縛った資料をいくつかまとめて座布団用圧縮袋の中に入れる  
この時、エタノールを噴霧することで、カビの発生を予防する



- ③圧縮袋の口を締め吸込口に掃除機のホースを差し込み、吸引する
- ④空気が入らないように吸込口からホースを抜き、空気が漏れないように圧着する



- ⑤吸水を見て定期的に吸水紙を替える
- ⑥状況によっては、真空凍結乾燥へ移行する必要があるため、専門家や専門機関に連絡をとる

